

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00750

研究課題名（和文）全ての通常学級児童のための英語音声指導法構築と視覚的教材開発の統合的研究

研究課題名（英文）Developing teaching method and materials of English sounds for young Japanese EFL learners

研究代表者

河合 裕美（Kawai, Hiromi）

神田外語大学・児童英語教育研究センター・准教授

研究者番号：10716434

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：公立小学校で聴覚障害など支援を必要とする児童の増加を考慮して、全ての児童が等しく英語音声指導を受けられるユニバーサルな教育体制を目指して、英語音声指導法と視覚的教材を開発した。(1)「日本語文字を介さない」指導を受けた聴覚障害児童の英語音素の知覚・産出能力の向上、(2)外国語授業中の活動別の騒音値、(3)通常学級における指導者の口形を「見る」傾聴姿勢の育成と明示的な音声指導の効果、(4)音声指導を受けた児童や指導した教員の英語音声に対する意識の変容、(5)視覚的教材の効果、(6)通常学級と特別支援学級の指導連携体制の構築、(7)外国語科における具体的な合理的配慮や支援の手立ての成果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校で増加する支援を必要とする児童の中でも特に聴解で最も弱い立場にある聴覚障害児童に焦点を当て、外国語授業中の音環境を明らかにし、日本語文字を介在させる従来の指導法ではなく、聴覚障害児童に英語音声そのものの指導ができることを実証し、「見る」傾聴姿勢が全ての英語入門期の児童に英語能力を高める上で有効であることを示した学術的意義は非常に高い。そして、小学校教員の指導を介助する汎用性の高い視覚的教材の開発や、支援を必要とする児童に具体的な配慮や支援策を提案できたことの社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：This study developed the method of teaching English sounds and the visual aids for children learning inclusive English classrooms, aiming at establishing universally designed English education. Overall, the three-year study has accomplished the following achievements: (1) the perceptive and productive abilities of hard-of-hearing pupils studying English in inclusive classrooms were improved though explicit English sound instruction, (2) the listening environment where hard-of-hearing pupils took English lessons was specified, (3) the explicit sound instruction to 100 5th-grader pupils in inclusive classrooms was effective, (4) the teachers and pupils' awareness of English sounds have changed across the treatment session, (5) the effective usage of the visual aids was observed, (6) TT system between regular class teachers and a special education teacher was well established, and (7) the concrete accommodations and educational support in English classrooms were proposed.

研究分野：英語音声、初等英語教育

キーワード：英語音声指導法 音素認識 音韻認識 通常学級 視覚的教材 聴覚障害児童 音環境 口形模倣

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2020年度からの公立小学校高学年の外国語科では、従来の外国語活動の指導内容を見直し、コミュニケーション能力の基礎を養うために、4技能5領域(聞く・読む・話す(やり取り・発表)・書く)が設定され、音声から読み書きへ円滑に指導することが求められることとなった(文部科学省, 2017)。2011年の外国語活動必修化以来、指導を担当する小学校教員の意識も大きく変わりつつある。しかしながら、教員自身が英語指導能力や自身の英語運用能力を高めたいと思っている一方で、音声指導に必要な発音や、関連する音素認識・音韻認識、アルファベット文字と音の一致認識(sound-letter recognition)などの正しい指導法の知識に乏しく、自身の発音能力や音声指導に自信がない教員が多い。この背景には、未だ具体的な音声指導法が確立しておらず、教員向け研修が普及していないことと、英語初習期の日本語母語児童の英語音声の知覚と産出能力の実態が把握されていないことが挙げられる。

初等英語教育が大きく変わろうとしているなか、通常学級には聴覚障害など支援を必要とする児童数が増加している。その要因の一つとして、学校教育法施行改正により、障害児の通常学級選択権が総合的な判断により認められるようになり、障害者差別解消法の施行により、通常学級に在籍する支援が必要な児童に対して合理的配慮の提供が義務づけられたことが挙げられる。しかしながら、外国語指導における具体的な配慮や支援策が整備されていない(大谷・飯島・築道・小川, 2015)。初習期の児童への外国語指導は、音声を十分に与え聴解能力を高めていくことが必要であるが、支援を必要とする児童の中でも、聴解において最も弱い立場にある聴覚障害児童については、「日本語文字を介在させた」指導が当たり前となっている。Kawai(2017)は、高学年児童に英語音素の明示的な指導をおこない、児童が指導する教師の口周辺の筋肉の動き方や舌の動きをよく見て発音の仕組みを理解でき、発音の仕方が分かるようになる視覚的方略を構築していることを明らかにした。このことから、聴覚障害児童を対象とした「日本語文字を介在させない」英語音声指導法開発の着想に至った。

### 2. 研究の目的

2020年度からの小学校外国語教科化から有用できる日本語を介さない英語音声指導法と視覚的補助教材を構築・開発し、聴覚障害児童をはじめとする支援を必要とする児童が在籍する通常学級が増加していることを考慮して、全ての児童が等しく英語音声指導を受けられるユニバーサルな教育体制を確立することを目指した。具体的には、以下の研究課題を設定し、3カ年に渡って研究計画を遂行した。

- (1) 英語入門期の聴覚障害児童の英語音素の知覚と産出の特徴や困難度を明らかにし、明示的な音声指導の効果を検証する。
- (2) 児童が外国語授業を受けている教室の音環境の実態や、外国語授業中の騒音の特徴を明らかにし、具体的な合理的配慮や支援方法を検討する。
- (3) 外国語授業を担当する小学校教員を介助し、児童が英語音声を体感しながら学習できる視覚的教材を開発し、その効果を検証する。
- (4) 英語入門期の高学年児童の明示的な音声指導の効果を検証する。
- (5) 音声指導を担当する教員の指導に対する意識の変容を明らかにする。
- (6) 構築した英語音声指導法や視覚的教材を教員研修やセミナー等で活用し、実用化し、普及を目指す。

なお、本研究計画提出時は「分節音」の表記としたが、英語教育の専門用語との結びつきから、本報告書では「音素」と表記する。

### 3. 研究の方法

本研究の研究課題を達成するため、各年度において以下の研究手続きをおこなった。

#### 3.1 2018年度(平成31年度)

(1) 外国語授業が行われている高学年通常学級教室、低学年が外国語授業を受ける英語ルーム、防音施工のある聴覚障害特別支援学級教室の3カ所において、英語授業中の騒音値の差を比較し、外国語授業中の騒音値の特徴を分析した。

(2) 聴覚障害児童の英語音素の知覚と産出の困難度を特定した。千葉県船橋市内の公立小学校2校に在籍する聴覚障害児童の高学年3名(実験群)と聴児5名(統制群)が参加した。実験群は、知覚テスト(英語非単語 英語ミニマルペア 2種類の英語音韻認識テスト)と産出テスト(日本語構音 外来語 英語現実単語 英語非単語)を個別指導の事前事後に実施した。統制群は を受験した。

(3) 2校の聴覚障害児童(参加者1年生から6年生までの9名が個別指導に参加した)への明示的な音声指導を動画撮影し、児童が教師を注視している時間を計測した。児童の教師への注視時間と教師が児童に注視している時間の割合を注視率として算出した。

(4) 小学校英語や合理的配慮に対する意識について明らかにするために、通常学級担任や聴覚障害児童の支援員らに外国語授業についてのインタビューをおこなった。

(5) 研究代表者は、研究対象校の小学校教員(特別支援学級学級担任)やALT教員に研修をお

こなった。教員らは聴覚障害児童に指導者が発音する際に口元や口形を「見る」傾聴姿勢を育成し、口形模倣を意識させる日本語を介さない音素認識を含む英語音声指導を実践した。事後に担任は、授業実践について振り返りをおこなった。

(6) 日本語母語児童にとって意味が分かりやすい英単語学習のための絵カードを開発した。

(7) 教員と児童のための英語音声体験型学習映像教材のパイロット版を開発した。

### 3.2 2019 年度（令和元年度）

(1) 5 年通常学級 3 クラスにおいて、指導者の口元や口形を「見る」傾聴姿勢を育成し、明示的な音声・文字指導をおこなった。英語音声指導を受ける高学年児童の発話者の口形への注視時間、英語能力（聴解・発音）、英語学習に対する意識が、事前事後で変化するかどうかを検証した。指導の事前事後で児童は音韻認識テスト、英語現実単語・非単語の繰り返し模倣テストを受験し、テスト受験中の注視時間をアイトラッキング・ソフトによって計測した。学期末に実施した振り返りを分析した。

(2) 前年度から継続して、通常学級に在籍する聴覚障害児童に英語音声の個別指導をおこなった。通常学級の外国語授業と連携した指導内容を聴覚障害特別支援学級担任が指導した。

(3) 教員の指導を介助でき、児童の英語音声知覚・産出能力向上の一助になり得る音声指導教材として、音声指導用映像教材と当該教材中で使用する絵カードを完成した。教員研修やワークショップ等で紹介し、小学校教員、特別支援教員、高校教員、大学教員、民間教室教師らにモニターとして映像教材を使用し、音声指導を実施してもらった。モニターから使用感や改善点等のフィードバックをもらい、教材の改良を進めた。

(4) 通常学級における外国語授業と他教科の騒音値を比較するため、5 学年通常学級 3 学級教室で実施されている外国語授業と国語・算数・理科・社会・図工の授業中の騒音値を測定した。さらに、外国語授業中の活動と騒音値変化を照合し、特徴を分析した。

(5) 研究代表者と分担者が担当する教員研修等にて、教員の英語音声指導における不安感・指導能力・英語能力に対する意識について質問紙調査をおこない、分析をおこなった。

### 3.3 2020 年度（令和 2 年度）

(1) 視覚的教材の効果や、小学校教員の指導に対する意識の変容を検証するため、研究校の高学年通常学級や特別支援学級担任らに授業中に教材を使用してもらい、指導の様子をビデオ撮影し、指導後に担任らにインタビューをおこなった。

(2) 明示的な英語音声指導を受けた 5 年生児童の話者の口形への注視時間・英語能力（聴解と発音）・英語学習に対する意識について学会で発表し、論文にまとめた。

(3) 「英語音声指導用動画教材」について学会で発表し、小学校の外国語活動・外国語担当教員が音声指導の際の活動を考案したり、自主教材を作成する際に留意すべき点について報告した。

(4) 2018 年度から継続しておこなってきた聴覚障害児童への指導の効果を引き続き検証し、動画撮影し、分析した。

(5) 本研究の集大成として、開発した視覚的教材（映像教材と単語学習のための絵カード）を付録とする指導書を執筆した。

(6) 2019 年度に実施した教員の英語音声指導についての質問紙調査結果を学会等で発表する予定であったが、感染症の影響で学会が中止となってしまったため、本研究終了後に発表する予定である。

## 4. 研究成果

### 4.1 2018 年度（平成 31 年度）

(1) 通常学級に在籍する聴覚障害児童が英語を学習する音環境は、平均騒音値は 60dB 以上であり、学校環境衛生基準の「騒音に関する基準」値をはるかに超える値であることが分かった。最大値は 80dB 以上の「極めてうるさい」レベルとなっているが、1 授業内の最小値と最大値の差が大きいことから、授業内の活動と騒音値の変化を照合する必要性が示唆された。

(2) 聴覚障害児童（実験群）の英語音素の知覚・産出能力は、聴児（統制群）に比べ、周波数の高い摩擦音・破擦音などの知覚・産出能力が低い。個別指導によって知覚能力も産出能力も向上した。知覚能力は、子音については、総じて頭音・語末音とも紛らわしい破裂音や摩擦音の判別が困難である。しかしながら、テスト実施の際に発話者の口形を見せる合理的配慮によって、実験群の知覚テストの点数は、聴児の初回の平均点（Kawai, 2017）より高かった。産出は、総じて意味表象有りの現実単語より非単語の方が難度が高く、統制群と同様に側音・半母音・母音産出が困難である。破擦音や摩擦音の産出は、統制群に比べて困難である。摩擦音は、統制群にとっても産出は困難であることが分かった。高度重度聴力レベルの聴覚障害児童は、事前において /s/ 音を全く発音することができなかったが、事後で呼吸は弱い産出することができた。児童の聴力レベルによって、習得時間や知覚・産出能力の境界が存在すると思われる。本研究では、軽度と中度以上の聴覚レベルの差が知覚と産出に影響を与えていることが示唆された。

(3) 視線分析によって、聴覚障害児童の注視は 3 タイプ（教師を目で追う注視型・目線が合わない知識追求型・指導によって改善型）に大別された。最も注視に時間のかかったタイプの重度児童でも、指導によって教師の口形に注視がいくようになり、紛らわしい発音の判別問題ができるようになった。視覚保障をすることで児童は視覚的ストラテジーを構築し、傾聴姿勢

ができ、その結果、英語音素の知覚や産出能力の向上に結びついていく可能性が示唆された。

(4) 聴覚障害児童が在籍する通常学級担任と聴覚障害児童を支援する支援員へのインタビューの結果、通常学級の担任は、英語教科化について自己の指導能力を懸念し、特に音声指導については不安感を持っていることが分かった。聴覚障害児童に対して担任として配慮している意識は高いが、支援員と具体的な配慮の点において意識の差があると思われる。支援員は、通常の一斉指導だけでは聴覚障害児童の理解が不足していると考えている。

(5) 聴覚障害特別支援学級担任は、研究代表者から研修を受けながら次第に指導のコツを掴み、聴覚障害児童への日本語文字を介さない個別指導を主導するようになった。指導後の振り返りの結果、研究開始以前は、自分自身が英語が苦手であり、発音が苦手な児童に対して無理して発音させない方が配慮だと思っていたが、日本語文字を介さずに、英語音素そのものを指導することが可能だと分かると、教員自身が発音トレーニングに励み、聴覚障害児童との個別指導を実践するようになった。聴覚障害児童の聴覚の特徴を十分に把握し、母語の語彙不足や知識不足を補足する上で、意味のある文脈から音声指導をおこなうことを心がけていた。指導に対する意識がポジティブに変容し、指導技能が向上した。

(6) 小学校英語の語彙範疇を含む基本語彙約 215 語を抽出し、音素認識・音韻認識・発音指導で活用するために、音素に基づく分類による「絵カード」を開発した。イラストは低学年児童でも意味表象が分かりやすく描かれているため、幅広い年齢層で活用することができる。

(7) 英語音声の音素や超分節音的な特徴を児童が体感しながら学習でき、教員が指導中に活用できる映像教材「英語音声指導用動画教材」のパイロット版を開発した。

#### 4.2 2019 年度（令和元年度）

(1) 発話者の口元や口形を「見る」傾聴姿勢の育成に努めた通常学級 5 年生児童の話者の口形への注視時間・英語能力（聴解と発音）・英語学習に対する意識を明示的な英語音声指導の事前・事後で上位・下位グループ別に比較した結果、児童の発話者の口形への注視時間が増え、英語能力や英語学習に対する意識が向上した。特に、下位グループの英語能力の音韻認識と発音能力がともに有意に伸びた。インクルーシブな英語学習体制を目指す上で、明示的な音声指導の際の「見る」傾聴姿勢は、全ての児童にとって有益な英語学習方略であることが分かった。

(2) 2018 年度から継続して、聴覚障害児童に英語音声の個別指導を通常学級の外国語授業と連携しておこなった結果、聴解能力が先行して伸び、構音能力は後から徐々に向上していることが明らかとなった。聴解は残響しやすい語末音の方が聞こえやすく、発音では意味の分かる現実単語の方が構音しやすい。聞き取りづらいために構音しづらい摩擦音や無声破裂音などは、何度もスパイラルに指導していく必要がある。

2018 年度に実施した聴覚障害児童への音声指導や外国語授業中の騒音値の検証結果については、研究代表者・分担者・研究協力者が複数の学会にて口頭発表やポスター発表をおこなった。

(3) 視覚的教材のうち、映像教材「英語音声指導用教材」（英語の音 聞いてみよう！見てみよう！まねしてみよう！）が完成した。全 10 回で各回が 5 つのパートで構成され、英語音声の音素的特徴と超分節音的特徴を学習できるよう、児童が映像のアクティビティを楽しみながら発音して英語音声を体感できる教材である。各回は 12 分ほどで授業内の帯活動やモジュール授業として使用することができる。映像教材は、英語と外来語の違い、ミニマルペアを使った頭音の判別、Onset & rime の学習、音節ブレンディング、音節セグメンテーションの 5 パートから構成されている。研究代表者と分担者はセミナー等で本映像教材を紹介し、希望教員に DVD を送付した。

絵カードについては、当該年度も開発を続け、最終的には 285 語となった。教員研修やワークショップ等で使用して活用例を紹介した。絵カード裏側の綴りのフォントをユニバーサルフォントに変更し、さらに使いやすいものに改良を進めた。

(4) 5 学年通常学級 3 学級で測定された英語授業と国語・算数・理科・社会・図工の授業の騒音値を比較した結果、英語授業の平均騒音値は有意に他教科の平均騒音値よりも高かったが、他教科の平均騒音値も「うるさい」レベル（降旗・柳沢，1995）であることが分かった。聴覚障害児童や、大きな音に過敏な児童や集中力に問題のある児童を考慮すると、英語授業だけでなく全ての科目の音環境についてより実態を把握し、学習環境の改善を検討すべきことが示唆された。

さらに外国語授業中の騒音値を活動別に照合した結果、騒音値が高いのは、「話す」領域のうちの「やり取り」など児童が対話をおこなう活動で、「リスニング」や「書く」活動は比較的平均騒音値が低い。「発音」の活動は、指導者がモデル発音をする直前で児童が一斉に指導者の口元や口形を一斉に見ることで騒音瞬時値が下がって「静けさ」を実現でき、教室後方に摩擦音のような聞こえづらい音素も聞こえる環境ができることが明らかとなった。聴覚障害児童が在籍している学級で、指向性が高く、高周波域を聴取しやすい支援スピーカーを最前列に座っている聴覚障害児童の机に置き、連動するワイヤレスマイクを担任や ALT に装着してもらって英語授業を実施したところ、後方の児童も音声がよく聞こえるようになることで、学級内全児童に等しく聴覚保障をしていくことが可能となった。

研究成果として、外国語授業中の合理的配慮や日本語文字を介さない支援のあり方について、以下のように提案することができる。

- 学級内の聞こえづらい児童に配慮するため、全ての児童に「見る」傾聴姿勢を徹底する。
- 授業全般：聞こえづらい児童や聴覚障害児童は、教師の顔がよく見える前方に座り、机に支

援スピーカーを設置するとよい。補聴器を装着している児童に、デジタルワイヤレス補聴支援システムを活用し、聴覚保障をおこなう。ティームティーチングの場合は、主に発話する教師がロジャーマイクを首に掛け、児童の補聴器ロジャーがマイクからの音声を受信する。テレビモニターから映像視聴する場合は、スピーカーとテレビを接続して聴覚保障をおこなう。それでも理解が難しい場合は、支援員が児童の側で学習サポートをおこなう。

- 「やり取り」の活動：目標表現についてヒントを与えて質問の意図を理解させ、答えを引き出すような足場かけをおこなう。
- 教室内を歩きながらの「やり取り」(インタラクティブな対話活動)：ロジャーマイクを対話者の児童に渡して聴覚保障をおこなう
- 「発表」：ロジャーマイクを発表者が持つことで、聴覚保障をおこなう。
- 「発音」指導：指導者がロジャーマイクを持ち、発音指導の際の口元・口形を一斉に見て「静けさ」を作り出す傾聴姿勢を徹底する。
- 「発音」「リスニング」「読み書き」の活動：聴覚障害児童の机に支援スピーカーを置くことで、教室後方まで聞こえづらい英語子音が聞こえるようになる。音声の発生源が ICT 機器の場合は、連結装置と支援スピーカーをペアリングして音声を再生し、聴覚保障をする。
- 授業に関わる指導者全員が指導案や教材を共有し、授業内容をよく理解した上で、学習不安や支援が必要な児童への机間指導や個別のケアを指導者間で積極的におこなう。

(5) 教員研修やワークショップに参加した小学校教員(150名)と中学校教員(150名)に英語音声指導における不安感、指導能力、英語能力に対する意識について50項目から成るアンケート調査を実施した結果、8因子(英語力に対する不安 英語発音指導への意欲 自己の英語能力の自信 音声指導能力 英語授業中の児童生徒の意識への認知 英語発音の重要性に対する意識 音声・リテラシー指導の知識 英語指導者としての自信)が特定された。8因子を変数として小学校教員と中学校教員とで比較した結果、小学校教員は中学校教員と同様に変数は高いが、は中学校教員よりも有意に高く、は中学校教員よりも有意に低かった。一方、中学校教員は、小学校教員よりも発音指導の際にカタカナ使用に対して有意に肯定的であることが分かった。さらに、相関分析や重回帰分析を実施した結果、小学校教員と中学校教員では、因子同士の関係性が異なり、中学校教員は指導の自信は音声指導ではなく、他の領域かもしれないことが推察された。

#### 4.3 2020年度(令和2年度)

(1) 音声指導をおこなう小学校教員に視覚的教材(映像教材と絵カード)を授業で使用してもらい、その様子をビデオ撮影し、さらに、指導期間後にインタビューを実施した。その結果、担任らは指導当初は指導に対する不安感が大きかったが、学級間や通常・特別支援学級間での指導連携体制を構築し、指導回数を重ねることで英語音声指導法に対する理解を深め、足場かけをおこなうなどの指導の工夫を凝らせるようになった。また、支援が必要な児童や英語学習に困難を抱える児童への配慮や寄り添う指導をおこなっていたことが明らかとなった。児童の特性を活かした授業を展開することで児童の学習に対する動機付けや意欲を促進し、その結果、学習に対する意識が高揚していることが観察された。視覚的教材は、教員の指導技術を介助し、児童の英語音声に対する気付きや学習を深めることができる有効な教材である。

(2) 研究代表者・研究分担者・研究協力者は、2019年度の検証結果について学会で発表し、論文にまとめた。研究代表者と研究協力者は、聴覚障害個別指導と通常学級と特別支援学級の外国語指導連携体制の長期的取組みについて、学会で口頭発表や自主シンポジウムをおこなった。

(3) 研究分担者は、児童に英語の音韻認識指導をおこなう教員の教材作成等に資するよう、小学校段階で学ぶ単語リストに、発音記号、分綴、Onset & rime、子音結合の出現位置、音節数、強勢パターン、「地名」「色」といったジャンル、対応するカタカナ語のモーラ数等の情報を付与した発音データベースを構築し、本研究で開発した映像教材に発音データベースを応用した。研究成果について、学会で口頭発表をおこない、参加者より得たフィードバックに基づき、データベースの内容・デザインの改良作業をおこなった。

(4) 通常学級に在籍する聴覚障害児童に長期的に英語音声指導をおこなった結果、聴解能力が先行して伸び、構音能力は後から徐々に向上した。指導を担当した聴覚障害特別支援学級担任は、通常学級での単元内容への理解力を高め、発音指導のために聴覚障害児童のレベルに見合う教材や絵本を用意してコンテキストの中で語彙を発音させ、頭音や語末の子音を丁寧にチェックし、構音が難しい子音をALTに発音してもらいながら何度もその語彙に触れさせ、内容に対する理解を促進するスパイラルな指導をおこなっていた。その結果、指導を長期間受けた聴覚障害児童の発音の正確さが高まり、さらに、複数音節や複数文から成る発表において流暢性が高まった。聴覚障害児童の英語学習不安が次第に解消され、主体的に学ぶ意欲が高まった。

(5) 本研究の集大成として、開発した視覚的教材を付録とする指導書を執筆した。コロナ禍の影響により、当初の出版予定時期より遅れており、2021年度前半に出版予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美  | 4. 巻<br>13         |
| 2. 論文標題<br>聴覚障害児童の英語音声の知覚・産出能力の実態調査 通常学級内授業における指導法・教材開発検討のための基礎研究 | 5. 発行年<br>2019年    |
| 3. 雑誌名<br>博報財団第13回児童教育実践についての研究助成報告書                              | 6. 最初と最後の頁<br>1-53 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                                     | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                            | 国際共著<br>-          |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美・高山芳樹  | 4. 巻<br>33        |
| 2. 論文標題<br>通常小学校在籍の聴覚障害児童の英語分節音産出エラーの特徴 摩擦音・破擦音の観察を中心に   | 5. 発行年<br>2019年   |
| 3. 雑誌名<br>2019年（令和元年）度 第33回日本音声学会全国大会予稿オンライン掲載 <a href="http://conference.wdc-jp.com/psj/2019/index.html">http://conference.wdc-jp.com/psj/2019/index.html</a> | 6. 最初と最後の頁<br>1-6 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-         |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹   | 4. 巻<br>45            |
| 2. 論文標題<br>大学生の日本人英語学習者の音節認識能力を探る 英単語の「音節の数」をいかに正確に数えられるのか | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>第45回 全国英語教育学会 弘前研究大会 発表予稿集                       | 6. 最初と最後の頁<br>368-369 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                              | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                     | 国際共著<br>-             |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美・田中真紀子   | 4. 巻<br>19              |
| 2. 論文標題<br>小学校高学年2年間の英語能力と児童の英語学習に対する意識の変容 児童の自己評価に影響している要因は何か | 5. 発行年<br>2019年         |
| 3. 雑誌名<br>JES Journal（小学校英語教育学会誌）                              | 6. 最初と最後の頁<br>101 - 116 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                                  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                          | 国際共著<br>-               |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Tanaka, M., & Kawai, H.  | 4. 巻<br>5               |
| 2. 論文標題<br>Children's sound-letter recognition knowledge predicts high self-evaluation of English abilities: Analyses of questionnaires and tests given to Japanese elementary school children | 5. 発行年<br>2018年         |
| 3. 雑誌名<br>JACET International Convention Selected Papers   | 6. 最初と最後の頁<br>130 - 155 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>該当する            |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Tanaka, M., & Kawai, H.  | 4. 巻<br>29              |
| 2. 論文標題<br>Teaching children how to read and write: Findings and suggestions based on the research on Japanese elementary school English education | 5. 発行年<br>2019年         |
| 3. 雑誌名<br>言語教育研究   | 6. 最初と最後の頁<br>119 - 143 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-               |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美  | 4. 巻<br>18            |
| 2. 論文標題<br>高学年児童はどう聞こえ、どう発音しているのか？ 英語分節音 (音素) の知覚・産出能力の実態検証 | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>JES Journal (小学校英語教育学会誌)                          | 6. 最初と最後の頁<br>68 - 83 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.20597/jesjournal.18.01_68    | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                      | 国際共著<br>-             |

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美  | 4. 巻<br>93           |
| 2. 論文標題<br>通常学級に在籍する聴覚障害児童の英語音素知覚・産出能力 教科化におけるインクルーシブな英語教育体制の取組みへ | 5. 発行年<br>2020年      |
| 3. 雑誌名<br>英文學思潮   | 6. 最初と最後の頁<br>1 - 29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                    | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                            | 国際共著<br>-            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美   | 4. 巻<br>39            |
| 2. 論文標題<br>明示的な英語音声指導に対する児童の意識変容と学習方略の構築 「主体的に学ぶ」高学年児童の思考の特徴 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要                           | 6. 最初と最後の頁<br>17 - 32 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                               | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                       | 国際共著<br>-             |

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美   | 4. 巻<br>33              |
| 2. 論文標題<br>聴覚障害児童が在籍する公立小学校の英語学習環境の実態調査 インクルーシブな英語教科化を目指して | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>神田外語大学紀要   | 6. 最初と最後の頁<br>191 - 214 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                             | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                     | 国際共著<br>-               |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹   | 4. 巻<br>49            |
| 2. 論文標題<br>英単語リズムパターンの視覚提示によって 日本人英語学習者の発音の明瞭性はいかに変化するか 聞き手が英語の母語話者と非母語話者の場合 | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>英学論考   | 6. 最初と最後の頁<br>31 - 42 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                       | 国際共著<br>-             |

|  |                  |
|--|------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                             | 4. 巻<br>70       |
| 2. 論文標題<br>音韻認識・発音の指導に役立つ総合的英単語発音データベースの公開 | 5. 発行年<br>2021年  |
| 3. 雑誌名<br>英語教育                             | 6. 最初と最後の頁<br>21 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし             | 査読の有無<br>無       |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     | 国際共著<br>-        |



|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                                   | 4. 巻<br>70            |
| 2. 論文標題<br>小学校の英語の指導で大切なこと 文字指導の大前提となる音の指導をたっぴりと | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>英語教育                                   | 6. 最初と最後の頁<br>22 - 23 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難           | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美                         | 4. 巻<br>70            |
| 2. 論文標題<br>コロナ禍でも続けられた聴覚障害児童への英語音声指導   | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>英語教育                         | 6. 最初と最後の頁<br>14 - 16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>河合裕美・松尾理恵 (船橋市立船橋小学校)・高山芳樹                                   |
| 2. 発表標題<br>聴覚障害児童が在籍する通常小学校の英語学習環境の実態調査 インクルーシブな通常学級・個別指導連携体制の音声指導を目指して |
| 3. 学会等名<br>第19回小学校英語教育学会 (JES) 北海道大会                                    |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>河合裕美   |
| 2. 発表標題<br>聴覚障害児童の英語音声の知覚・産出能力の実態調査 通常学級内授業における指導法・教材開発検討のための基礎研究 |
| 3. 学会等名<br>博報財団 第13回 児童教育実践についての研究助成 研究成果報告会                      |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>河合裕美・松尾理恵（船橋市立船橋小学校）  |
| 2. 発表標題<br>通常小学校在籍の聴覚障害児童の英語分節音産出と教室音環境の実態 日本語を介さない英語音声指導法構築と合理的配慮の具体的検討のために |
| 3. 学会等名<br>一般社団法人日本特殊教育学会第57回大会  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>河合裕美・高山芳樹                                   |
| 2. 発表標題<br>通常小学校在籍の聴覚障害児童の英語分節音産出エラーの特徴 摩擦音・破擦音の観察を中心に |
| 3. 学会等名<br>2019年（令和元年）度 第33回日本音声学会全国大会                 |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>河合 裕美・松尾 理恵（船橋市立船橋小学校）                                 |
| 2. 発表標題<br>公立小学校通常学級で学ぶ聴覚障害児童の英語分節音の知覚・産出能力 日本語を介さない英語音声指導法構築のために |
| 3. 学会等名<br>2019年度 日本LD学会 第28回大会（東京）                               |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>松尾理恵（船橋市立船橋小学校）・河合裕美   |
| 2. 発表標題<br>通常小学校に在籍する聴覚障害児童への英語分節音指導 「聞こえ学級」担任の日本語を介さない個別英語音声指導の取り組みの効果 |
| 3. 学会等名<br>2019年度 日本LD学会 第28回大会（東京）                                     |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高山芳樹  |
| 2. 発表標題<br>大学生の日本人英語学習者の音節認識能力を探る 英単語の「音節の数」をいかに正確に数えられるのか |
| 3. 学会等名<br>第45回 全国英語教育学会 弘前研究大会（弘前大学）                      |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>河合裕美   |
| 2. 発表標題<br>高学年児童の学習ストラテジーと分析的学習能力 明示的な音声指導に対する振り返り記述の質的分析 |
| 3. 学会等名<br>JES小学校英語教育学会長崎大会                               |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>田中真紀子・河合裕美  |
| 2. 発表標題<br>小学校高学年2年間の英語能力と児童の英語学習に対する意識の変容 児童の自己評価に影響している要因は何か |
| 3. 学会等名<br>JES小学校英語教育学会長崎大会                                    |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Tanaka, M., & Kawai, H.   |
| 2. 発表標題<br>Japanese older elementary school students' yearlong progress of English abilities in an EFL setting |
| 3. 学会等名<br>JACET 57th International Convention (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kawai, H.   |
| 2. 発表標題<br>Changes in older EFL Japanese children's awareness of English sounds through explicit sound instruction |
| 3. 学会等名<br>Language Awareness Conference 2018 in Amsterdam (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高山芳樹  |
| 2. 発表標題<br>中学校英語授業における発音指導のミニマム・エッセンシャルズ                 |
| 3. 学会等名<br>ELEC同友会英語教育学会主催教科書著者による中・高教科書指導法ワークショップ(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>田中真紀子・河合裕美   |
| 2. 発表標題<br>小学校高学年児童の英語能力と英語学習に対する意識の関係 英語が「よくできる」子はどのような意識を持っている児童か |
| 3. 学会等名<br>第19回小学校英語教育学会(JES)北海道大会                                  |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>河合裕美・大谷みどり(島根大学)・松尾理恵(船橋市立船橋小学校)・飯島睦美(群馬大学)               |
| 2. 発表標題<br>支援を必要とする児童を含む通常学級の外国語学習のための環境づくり 特別支援学級との英語指導連携体制構築の一環として |
| 3. 学会等名<br>日本特殊教育学会第58回大会 自主シンポジウム                                   |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>河合裕美・高山芳樹・松尾理恵（船橋市立船橋小学校）                       |
| 2. 発表標題<br>英語音声指導における口形を「見る」態度の育成の効果 高学年児童の注視時間・英語能力・意識の変化 |
| 3. 学会等名<br>第20回 小学校英語教育学会（JES）中部・岐阜大会                      |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>高山芳樹                         |
| 2. 発表標題<br>児童への音韻認識指導のための英単語発音データベースの構築 |
| 3. 学会等名<br>第20回 小学校英語教育学会（JES）中部・岐阜大会   |
| 4. 発表年<br>2020年                         |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>河合裕美   |
| 2. 発表標題<br>発音口形を「見る」傾聴姿勢と明示的英語音声指導の効果 聴覚障害学級から通常学級への長期的指導連携の取組み |
| 3. 学会等名<br>英語教育ユニバーサルデザイン研究学会（AUDELL）第2回研究大会                    |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>河合裕美  |
| 2. 発表標題<br>小学校英語が変わる！ 中学年の「音声」中心から高学年の「文字」への円滑な指導を目指して |
| 3. 学会等名<br>獨協大学DUETA学会第10回ワークショップ（招待講演）                |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>河合裕美  |
| 2. 発表標題<br>通常学級に在籍する聴覚障害児童への英語音声指導の取組み 発音口形を「見る」傾聴姿勢は聴児へのお手本になる！ |
| 3. 学会等名<br>英語教育ユニバーサルデザイン研究学会 2021年度第1回研究会（招待講演）                 |
| 4. 発表年<br>2021年  |

〔図書〕 計15件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                                | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>アルク                                 | 5. 総ページ数<br>217 |
| 3. 書名<br>最強の英語発音ジム - 「通じる発音」と「聞き取れる耳」をモノにする - |                 |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 13 - 60 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO！ 2018年4月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 60 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO！ 2018年5月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年6月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年7月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年8月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年9月号 |                                       |

|                                   |                                       |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                    | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                   | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年10月号 |                                       |

|                                   |                                       |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                    | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                   | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年11月号 |                                       |

|                                   |                                       |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                    | 4. 発行年<br>2018年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                   | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年12月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2019年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年1月号 |                                       |



|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2019年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年2月号 |                                       |

|                                  |                                       |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 著者名<br>高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2019年                       |
| 2. 出版社<br>NHK出版                  | 5. 総ページ数<br>高山執筆 pp. 10 - 61 (全80ページ) |
| 3. 書名<br>NHKテレビ エイエイGO! 2018年3月号 |                                       |

|                                       |                 |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>金谷憲、粕谷恭子、物井尚子(編)、高山芳樹(分担執筆) | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>大修館書店                       | 5. 総ページ数<br>112 |
| 3. 書名<br>[動画でわかる]英語授業ハンドブック 小学校編      |                 |

|                                       |                     |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>河合裕美・高山芳樹                   | 4. 発行年<br>2021年     |
| 2. 出版社<br>大修館書店                       | 5. 総ページ数<br>200(予定) |
| 3. 書名<br>聞いて・見て・まねて覚える英語の音 音声指導はじめの一步 |                     |

(産業財産権)

〔その他〕

〔講演〕（計4件）  
 高山芳樹（2018）。「体を使った英語の発音の身につけ方」 子どもと一緒に英語のリズムを楽しもう！ 東京学芸大学附属大泉小学校 創立80周年記念PTA講演会講師（2018年10月 於 東京学芸大学附属大泉小学校）（招待講演）  
 河合裕美（2019）。「まだ間に合う！小中接続を意識した音声・文字指導 つなぎテキスト“ We Can!” を使って」 神田外語グループ英語教育公開講座2019講師（2019年7月、於 神田外語学院）  
 高山芳樹（2020）。「通じる英語」を目指す発音指導の理論と実践」北星学園大学英文学科卒英語教員研究協議会（北星英研）2019年度研究会講師（2020年2月 於 北星学園大学）（招待講演）  
 高山芳樹（2021）。「今日から実践できる発音強化法 最強の英語発音ジム」株式会社アルク KCフォーラム講師（2021年3月オンライン開催）（招待講演）  
 〔教員研修〕（計 13件）  
 河合裕美（2018）. 千葉県小学校外国語活動担当中核教員向け英語研修担当, 千葉県教育委員会  
 河合裕美（2018）. 船橋市小学校英語授業改善研修担当, 船橋市教育委員会  
 河合裕美（2018）. 福島県天栄村外国語活動教員研修担当, 福島県天栄村教育委員会  
 河合裕美（2018）. 千葉市英語部会講演会, 千葉市教育委員会  
 河合裕美（2019）. 船橋市小学校英語授業改善研修担当, 船橋市教育委員会  
 河合裕美（2019）. 福島県天栄村外国語活動教員研修担当, 福島県天栄村教育委員会  
 河合裕美（2019）. 千葉市英語部会講演会, 千葉市教育委員会  
 高山芳樹（2018）. さいたま市中学校グローバル・スタディ科教員研修担当, さいたま市教育委員会  
 高山芳樹（2018）. 第1回青森県英語コミュニケーション能力向上研修担当, 青森県教育委員会  
 高山芳樹（2019）. 滋賀県高島市外国語教育授業研究会教員研修担当, 高島市教育委員会  
 高山芳樹（2019）. 第2回青森県英語コミュニケーション能力向上研修担当, 青森県教育委員会  
 高山芳樹（2020）. 第1回青森県版英語教育推進リーダー育成プロジェクト教員研修担当, 青森県教育委員会  
 高山芳樹（2021）. 第2回青森県版英語教育推進リーダー育成プロジェクト教員研修担当, 青森県教育委員会

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                 | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 高山 芳樹<br><br>(Takayama Yoshiki)<br><br>(10328932) | 東京学芸大学・教育学部・教授<br><br><br><br>(12604) |    |

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)   | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)          | 備考 |
|-------|-----------------------------|--------------------------------|----|
| 研究協力者 | 松尾 理恵<br><br>(Matsuo Rie)   | 船橋市立薬圃台小学校・自閉症・情緒障害特別支援学級・主任教諭 |    |
| 研究協力者 | 小川 朝輝<br><br>(Ogawa Tomoki) | 千葉県立東総工業高等学校・英語科・教諭            |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|